



学校教育目標「かかわる つながる よく生きる」

天応小・中学校 学校だより 令和4年10月号

描ける 架ける 翔る



呉市立天応小学校 Tel 0823 (38)7584

呉市立天応中学校 Tel 0823 (38)7545

## 課題の把握から改善へ 「令和4年度全国学力・学習状況調査」

4月に小学校6年生，中学校3年生を対象に実施された令和4年度全国学力・学習状況調査の結果（平均正答率）及び調査事項等は，次のとおりです。

【表1：教科別結果（平均正答率）】

	教科	本校	呉市	全国	広島県
天応小	国語	72	70	65.6	67
	算数	63	64	63.2	64
	理科	69	66	63.3	66
天応中	国語	72	69	69.0	69
	数学	48	50	51.4	50
	理科	49	49	49.3	49

【表2：調査事項及び主な課題の抜粋】

小学校（主な課題の抜粋）	中学校（主な課題の抜粋）
<p>【調査事項】            (ア)と(イ)を一体的に出題する。            (ア)身に付けておかなければのちの学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等            (イ)知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等</p>	
<p>【国語】互いの立場や意図を明確に捉え，自分の考えをまとめることに課題がある。            【算数】伴って変わる二つの数量の関係について考察することに課題がある。            【理科】考察や観察・実験を検討・改善することに課題がある。</p>	<p>【国語】「思考力・判断力・表現力」の中でも「話すこと・聞くこと」の領域に課題がある。            【数学】関数や量の関係を捉え，問題を解決することに課題がある。            【理科】考察や観察・実験を検討・改善することに課題がある。</p>

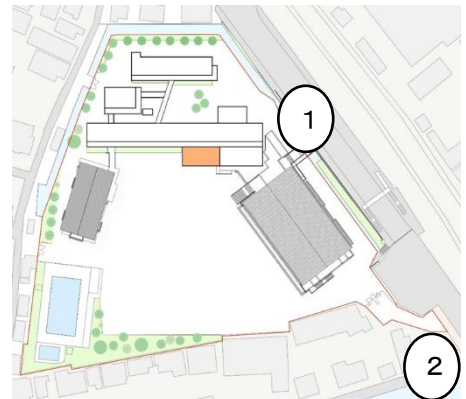
本中学校区では，国語については全国平均を上回り，算数，理科は全国平均と同程度，数学が全国平均を下回っておりました。

各教科に共通している課題は，調査事項（イ）に示された力が弱いことと捉えております。

調査対象の教科に止まらず，各教科の学習においても，基礎的・基本的な内容を確実に習得させるとともに，自分の考えをもたせ，友だちと交流後，自分の考えを再構築させることを通して，自らの考えを更新させる取組を積み上げ，知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力等を培っていきたいと考えております。

### 正門及び新体育館棟使用開始

10月3日（月）より，国道31号線に直結した正門（右図①）が使用開始となりました。これに伴い，車の出入り口をJA側の門（右図②）とします。また，新体育館も10月5日（水）から授業等で使用することができるようになりました。



## 天応小体育館「ありがとう会」

令和4年10月新体育館棟(2Fアリーナ)が使用開始となりました。

これに伴い同年10月24日から天応小体育館の解体工事が開始されます。

10月3日(月)には、天応中学校生徒会主催で、様々な方々の思いがある天応小体育館に、感謝の思いを表す取組を実施しました。

中学生と小学生が3つのグループに分かれ、体育館の壁面に、満開の桜、青い空、草木の緑をハンドペイントで描きました。



### 【壁画づくりを終えて】

これまでこの体育館で、昔のおもちゃで遊んだり、体育や部活の時間などで、祖母、母、兄と家族とともにお世話になったので、桜の木でお礼を表せたと思うのでうれしかったです。壊してしまうのは悲しいのですが、もっといい天応にしていけたらと思います。最後は感謝の気持ちを込めて、最高の文化祭にしていきたいです。壁画作業は、小学生と一緒に笑顔で取り組むことができ、素敵な時間でした。

【天応中 第2学年】

天応小体育館は、昭和49年に完成した。平成30年7月西日本豪雨災害時には避難所が開設され、被災された方々の生活を確保する場として活用された。(避難所開設期間57日。延べ避難者数755人。)また、東久保の呉市立天応中学校も被災したため、同年7月から天応中は、天応小に仮移転となり、天応小体育館は、中学校の教育活動時にも活用された。

この天応小体育館から巣立った卒業生は、小学校2,649名、中学校139名、計2,788名となる。

## 総合的な学習の時間「みんなで守るⅡ～つながろう天応～」(6年生)

9月28日(水)、天応小6年生が総合的な学習の時間「みんなを守るⅡ～つながろう天応～」の授業提案(小中合同研究授業)を行いました。

この授業では、地域の一員として防災や町づくりの視点から自分が何ができるかを考え、防災や町づくりに積極的にかかわることができるようにすることをねらいとしています。

児童が新体育館建設について調査する過程で、新体育館の建設に携わられた呉市教育委員会の森川副部長、香山壽夫建築研究所の梅野副所長から建設の経緯や新体育館の特色などについてお話を伺いました。

これを受け、新体育館に込められた思いとその魅力について考え、ポスターやリーフレット、動画で友達と協働しながら表現しました。授業提案の当日では、それぞれがまとめた内容が適切かを検討しました。

自分たちでまとめた新体育館の魅力等を自分の言葉で語る6年生の姿を頼もしく感じました。



また、9月29日(木)に新体育館の視察に来校された呉市教育委員会の寺本教育長に、各グループがまとめた内容を報告しました。

報告後、寺本教育長から「この新体育館は確かに復興のシンボルではあるけれど、本当の復興のシンボルは君たち子供たちなんだよ。」という言葉いただきました。

子供たち以上に私たち、教職員が胸に刻まなければならない言葉であると実感しました。

